

開催日時 平成24年5月23日(水) 18時30分～20時30分

開催場所 多摩区役所11階会議室

出席者 (別紙)

議題 マネジメント会議運営ルールを考える

- ・これまでの市民活動団体等の話し合いの経過と今後の進め方
- ・会則骨子(案)について(意見交換)

公園まちづくり調整室長挨拶

人事異動に伴う職員紹介(事務局)

コンサルタント紹介(事務局)

会員の組織代表交代等に伴う紹介(事務局)

#### (コーディネーター)

- ・前回までで第4回と準備会もここまで来たわけだが、「協働のプラットフォーム」を作り出そうということで、皆さんと夜遅くまで議論をしてきた。第4回と第5回の間に有志の方々が自発的に色々な会合を持っていただいているようなので、更に煮詰められてきたところもあると思う。
- ・私たちは今まで4回にわたって、保全と利用、公園のマネジメントなどについて主に話し合ってきた。今後、更にそれらについて本格的な議論となってくると思う。
- ・今日はこれまでの第4回から第5回の間にあった経過も含めて報告いただくとともに、更に会則等の試案が説明されるので、それらについて忌憚ないご意見をいただきたい。
- ・このマネジメント会議、協働のプラットフォームというのは、国内のさまざまな公園が抱えている保全と利用の問題に関しての一つのよい回答、あるいはモデルケースになると思っているのでよろしくお願いいたします。

配布資料確認(事務局)

(事務局：資料1の説明)

#### (事務局)

- ・この間行われた市民活動団体等の話し合いに参加された方々には本日配布した骨子案を説明して、議論いただいているため、本日の会議ではこれまでの意見交換に参加されていない地域団体、大学、企業の方々にまずはご意見をいただきたい。

#### (コーディネーター)

- ・この間、5月11日と5月16日と、市民活動団体の方々によって色々と話し合いが行われ、特に保全と利

用について議論がなされてきたということで、今後についても、準備会の開催にあたり、実際に生田緑地で活動されている市民活動団体の方々により議論いただき、それを踏まえて準備会に持っていくという形のご提案であるが、これについてご意見いただきたい。そのような方針でよろしいか。

- ・皆さんから異論がないようなので、次回からは準備会の事前に、生田緑地にこれまで関わってこられている市民活動団体の方々で構成される会議を開催し、それを踏まえて準備会を開催するというプロセスを踏むことになる。

(事務局)

- ・第1回の市民活動団体による意見交換の会議を6月13日の18時半から多摩区役所11階の会議室で開催させていただきたいと思うがいかがか。

(コーディネーター)

- ・6月13日に市民活動団体で構成される会議を開催するというので、この会議は市総合企画局主催で、生田緑地植生管理協議会及び生田緑地管理運営協議会の方々を中心に展開していくということでよろしいか。
- ・皆さんから異論がないようなので、第1回の市民活動団体会議は6月13日に開催される。
- ・両協議会に所属されない方がオブザーバーで参加するというのはどうなのか。

(事務局)

- ・希望される方がいらっしゃれば、傍聴のような形では大丈夫だと思うが、基本的には実際に緑地の中で活動していられる方たちの間で、保全と利用の問題についてすり合わせが必要という趣旨で開催する会議なので、実際に活動している団体の方々の中で話し合うことを考えている。

(コーディネーター)

- ・保全と利用が主なテーマということで、端的に言うと保全と利用会議というイメージでよいか。

(事務局)

- ・会議名称等については、第1回を開催してみて、皆さんから意見を聞いたうえで考えていきたいが、趣旨としては、実際に生田緑地で活動する市民活動団体の方たちとの会議というイメージである。

(事務局：資料2の説明)

(事務局)

- ・会則骨子案の最初に「この会則骨子(案)は、これまでの議論や配布資料等を踏まえ、必要最小限の事項をまとめたものです。今後、適宜、追加・修正をしてみたい」とあるが、5月11日に参加されていない地域団体等の方々には初めて見ると思うが、これは5月11日の管理運営協議会が主催した会議の中で原案を示した際に色々なご意見をいただいております、今後も変わっていくという前提で書いている。市の内部でも今後精査していくうえで付け加えていくところも随分出てくると思うので、あくまでも議論の一つのネタというくらいの考え方で見ていただければと思う。

(コーディネーター)

- ・5月11日の会議ではこれは既に議論されているようだが、今日初めてご覧になる市民活動団体以外の方々にまずはご意見を伺いたい。
- ・基本的にはマネジメント会議の準備会は、運営のルールを決めるということが大きな目標だったので、協働のプラットフォームのためのルールづくりを中心にこれまで4回やってきたわけだが、保全と利用に関しての色々な議論があり、それをさらに大枠でまとめるための会則というものが出てきたわけである。このあたりについてご意見を伺いたい。

(会員) 会長の任期について1年間となっているが、最低2年位でないとなかなか務まらないのではないか。

(コーディネーター)

- ・1年では短いということで、会長が次々に変わられては困るということか。

(事務局)

- ・2年でも構わないと思う。この場ですぐ2年と決めることではないと思うが、確かに1年では短い気もするので検討する。

(会員)

- ・2つあるが、一つは「はじめに」にある「最大限遵守する」は意味としてはわかるが不要ないと思う。
- ・2つ目は物事を決める場合に採決は好ましくないが、このあたりについて記載がないように思うがどうか。

(コーディネーター) 最大遵守するということについてまずはどうか。

(事務局)

- ・あくまで会則の骨子案なので、このような表現とした。表現を変えるならば変えていきたいと思うが、会則を皆さんで合意したのであれば、最大限遵守することは必要である。

(コーディネーター) 言葉というより、最大限遵守するという心構えは必要であると思う。

(会員) あえて言わせていただければ、最大限遵守するは不要ないと思う。

(事務局)

- ・先程の議決事項に関することが明記されていないことにもつながると思うが、実際に6月13日以降の市民活動団体の話し合いを深めていくと、ある程度この中で、きちんと決めていくような議決をしていかなければいけない可能性もあるが、そういうことも踏まえると、会則、特にルールとしてきちんと運用するとすれば、最大限遵守するとあえて言わなくてもいいのではないかと私も今ご指摘を受けて思っている。
- ・何でもかんでも多数決というわけにはいかないと思っていて、前回の5月11日の市民活動団体の会議の際に、特に植生管理の問題に関しては多数決というものではないだろうという意見もあり、そのあたりはこれから皆さんとの話し合いを進めていくうえで詰めていきたいと思う。
- ・部分的に議決事項を書いた方がいいところとそうではないところに分かれるかもしれない。これは今後の議論にさせていただきたい。

(コーディネーター)

- ・私も経験上、議決の問題は市民参加の場合、非常に難しい問題だと思う。それぞれの経験値も異なっているため、単純に数だけで議決することは難しい。ただ、そこが自発的な組織の非常に大事なポイントになってくるので、是非十分に議論していただきたい。

(会員)

- ・全体会というのは、全員出席することが前提とした会議なのか。植生管理協議会は予定何人というふうにやっていたが、ああいうことにはならないのか。

(事務局)

- ・全員に全体会を開催することは当然お知らせするが、勿論出席できない方が欠席することは当然あり得る。
- ・こういった組織をつくる時に必ず出てくる話だが、非常に人数の多い組織になると会員が全員集まっている総会のような場で議決すべき事項と、運営会議のような場で権限を持たせてやっていくところと分かれていくような形になっていくのが一般的だと思われる。
- ・今回の会則骨子案でも「全体会と運営会議」というものをつくっているが、全体会のイメージとしては、会員になれば出席する権限を有するというイメージで、強制的に出席させるということにはならないと思う。

(会員) 十分の一しか出席していなくても会議は成立してしまうのか。

(事務局)

- ・議決事項の問題に繋がってくると思うが、重要な案件を決めるときは会議の参加人数や議決ができるための

人数として、過半数や三分の一などと決めなければいけないことは出てくると思う。そういうものが出てくるのは、会則を決めたり変更したりするときだと思うが、そうではなくて、もう少し臨機応変にやった方がいいようなものに関しては運営会議に委ねるというものもあるかも知れない。あるいは、全体会で報告という形もあるかもしれない。

- ・報告のようなものは、報告案件を会員の皆さんに郵送してお知らせして、会議に出席しなくてもわかるように情報を送るなどやり方は色々あると思う。そのあたりも、そもそもマネジメント会議でカチッと決めるべきことなのかどうかなど今後話し合う中で詰めていきたいと思う。

#### (コーディネーター)

- ・そういったこととも関係すると思うが、「運営会議」については前回の議論で出た「運営のエンジンが必要」だということからきていると思うが、皆で議論するよりも中心的なメンバーで決めて、それを全体会に諮らうということ、これについてご意見があったらいただきたい。

#### (会員)

- ・運営会議については賛成であるが、部会の設置について、どのようなイメージか教えてもらいたい。部会というのは6月13日に参加した団体が全部部会になるのか。〇〇部会、××部会と色々できてくると思うが、部会のつくり方、構成の仕方、この辺りが明確でない。どのくらいの部会ができるのか、あるいは少数に絞られるのかわからない。
- ・もう一つは、全体会議の中で会員は団体ということはわかるが、団体で出席するのは一人なのか、全体会議では1団体で一人しか参加できないのか、あるいはたくさんの人が参加してよいものなのか。

#### (事務局)

- ・部会については、我々が部会とイメージしたときに確実に出てくると思っている部会が、「植生の管理に関する部会」である。これに関しては、生田緑地の中で緑の活動をしている人達にとって、植生の管理に関する考え方というのは一つの物差しもしくは規範として必ず必要になるが、緑の活動していない人達にとっても、例えばイベントを夜に開催した際に近くの植生に対して影響があるかどうかのような話も過去に何度か議論されたこともある。そういった意味では、生田緑地の中で具体的に活動する人にとって緑の植生に関する問題というのは避けて通れないものだと思う。
- ・その考え方の案をつくって上げていく機能として、緑に関しては確実に部会が必要だろうと我々は思っている。あと考えられるとすると、色々な市民活動団体の方たちが情報交換をしたり、活動の調整をしたりするような場が必要なのではないかと思う。
- ・この会則のひな形では、こういう部会をつくらうということを経営会議の中で決めると部会がどんどんできてくるイメージになっているが、それがよいのか、また、コアとなるものは、始めから会として〇〇会議、〇〇会議と設定しておいて、短期的に出てくる問題はプロジェクトで別建てにするなどということもこれから議論されてくると思う。

(会員) 部会の中で分かれていくということか。汗をかく部会と、論議をする部会は違うと思う。

#### (事務局)

- ・まさにその通りで、今言った計画を決めていくプロセスの部会と活動を調整していく部会は分かれてくるはずである。

(コーディネーター) 部会も階層化されるというか、レベルがあるということか。

(事務局) 話としてそうなるのではないかと想像される。

#### (コーディネーター)

- ・全て横並びである必要もないだろうということも含めて、とりあえず部会というように位置付けている。上位レイヤーの部会もあれば、その下で動く部会もある。

(事務局)

- ・この部分についてはおそらく6月13日以降の市民活動団体の方々と具体的な話し合いをやっていくと、色々な意見が出てくるのが想定されるので、この点については次回準備会では変わってくると思われる。

(コーディネーター) 中心を担うようなところはいくつかあると思われる。

(事務局) 団体から1名か複数名かということについては今後の議論の中で決めていきたいと思う。

(会員) 活動資金や会を運営するにあたっての原資などお金の問題について伺いたい。

(コーディネーター)

- ・活動資金というのは、この場合はマネジメント会議の運営資金なのか、あるいは今のお話で出た部会等での活動資金なのか。

(会員) 両方の意味合いである。要するに会議をスタートするにあたっての活動資金である。

(事務局)

- ・通常、市民の方たちで独自に会を設立しようとする、会場を借りたり、印刷物を作成したりする費用を会費で集めるのかどうするかといった問題に直面するが、マネジメント会議は指定管理者の事務の中にこの会議の運営に関する事務を盛り込む形の仕様となっている。
- ・その点は市民の方でつくる会議よりは、少し土台ができています。具体的には指定管理者に市から支払う指定管理料の中にこの会議の運営に関する会場の使用料、印刷物の印刷費用などが入っている。
- ・また、会議そのものが自らお金をかけて事業を行うということは想定していない。こういうことをやったらいいのではないかと提案が出てきた場合、例えば、実行委員会のようなものを外部につくる。そうなると資金調達一般的な方法として、市民活動支援センターの助成制度の活用や会費を集めるなどの方法も考えられる。
- ・指定管理者も、生田緑地の魅力づくりに関するものについて業務として携わるので、例えばPRの方法だとかサインの出し方などに対してこの会議の中で指定管理者と話し合っ、うまく意見が一致すればそれを指定管理者の通常業務の中で反映していくということも考えられる。
- ・そういった意味では言いつ放しということではなく、これが必要だということを話し合っ、現実的に可能かどうかを議論して、事業を行う主体者と皆さんの意見が一致すればそのまま実行に移る可能性もある。

(会員)

- ・3ページにはコーディネーターの事が書いてあるが、コンサルについてはここには記述がない。準備会ではコンサルがいるが、マネジメント会議ではどういう位置付け、取扱いになるのか。

(事務局)

- ・それは会議の内容によってくると思う。コンサルがいなくても皆さんで話し合っとりまとまるのであれば必要ないが、専門的な形で皆さんが話し合ったものを一つの成果物にまとめなければならぬようであれば、指定管理者がコンサルを雇うということもできるし、そもそもコンサル能力がある人材を指定管理者自身が有しているというイメージを持っているので、指定管理者はコンサル的に動けると思っている。それを飛び越えて非常に高度に専門的なことが必要になってくれば、状況に応じて指定管理者が委託として出すということも考えられる。

(会員)

- ・地域団体のメンバーが部会あるいは運営会議に所属するわけだが、これは、先程の所属から何名出席してよいかということと同時に、地域団体の者は、この部会あるいは運営会議に入らないと協議に加われないということなのか。

(コーディネーター) 地域団体の方は全体会の構成員になるだろうが、部会や運営会議に入らなくてもよいか。

(事務局)

- ・イメージとしては、先程の緑の事に関して計画を立て、実際に活動する団体を調整する場などはどちらかというと地域の方よりは活動団体の方が中心になると思うが、地域の方たちとしては、小川コーディネーターからお話があったように全体会に参加いただき、全体の物事を決めるときに地域として意見を言っていたきたいと思っている。
- ・今回提案している運営会議は、全体会のメンバーが非常に多くなってくると思われるため、実際に物事を決めて動いていくためのフットワークのよい運営組織をつくるべきではないかという去年の議論を踏まえて提案している。
- ・ここで想定される絞込みは、運営会議では、指定管理者、行政、4館の代表者など実際に事業を行っている人間と、実際に生田緑地の中で活動している市民活動団体の方々により構成されるであろう部会の代表者をメンバーとして考えている。地域の方には運営会議に毎回入っていただくという形ではなく、地域の方に聞かなければいけないようなことや意見を求めるべき場合に、別途全体会でやるかどうか別として、参加していただくようなイメージである。場合によっては個別の問題でプロジェクトのようなものをつくってそこに地域の方に入ってもらうような運営も考えられる。現行、運営会議の中に地域の方が書かれていない形になっていることについても、是非ご意見をいただきたい。

(コーディネーター) 特に地域団体の方はいかがか。

(会員)

- ・その点について私も気になっていたのだが、あまりかっちり決めない方がいいのではないかという気がしている。運営会議には会長と副会長と部会長は必ず入っているが、それ以外の者については会議日程を常に知らされている状態で、その時々協議に応じて参加したい人は会員であれば全員参加できるくらいのオープンな会にしておいた方がよいと思う、これは去年の推進エンジンを形にしているのだろうが、気分が乗ってやるぞと思った時に意見を言えないとやはり萎えると思うので、あまり決めつけずに「等」くらいにしておき、希望者にはいつでも門戸が開かれているようにしたらどうか。

(コーディネーター)

- ・コアメンバーは決まっていたとしても、参加するメンバーはその時々興味や自分が参加するプロジェクトを行う時期などに参加する機会を残しておいてもらった方がよいというご意見か。

(会員) あるいは何か提案をしたい人は参加できるとよい。

(コーディネーター)

- ・あまりメンバーを固定せずに、コアメンバーの会長・副会長は当然固定されるけれども、それプラスその時に何らかの課題を持っている人や意欲を持っている人も参加できた方がよいということだが。

(事務局)

- ・固定メンバーがいて、更にその時々議題に関係する人が自由に参加できるという形はできると思う。ただ、コアメンバー自体を会長・副会長程度にして誰でも常に出入りできる形がいいのか、あるいは、ある程度同じ人間で継続的に話し合った方がいいのかといったことは議論が必要なところではないか。決めなければいけないことが出てきたときに普段活動に参加していない人が大勢来て赴くまま意見を述べるのがよいどうかということがあるので、6月13日の市民活動の皆さんから出される意見も踏まえて検討していきたい。

(会員) むしろ、今日いらしている他の方々のご意見を伺いたい。

(小川コーディネーター) 地域団体、大学や企業の方々はいかがか。

(会員)

- ・地域団体、大学や企業の方々が入りたいと思って発言されているのか、あるいは、入りたくないと思って発言されているのか伺いたい。

(コーディネーター)

- ・この準備会は、画期的な協働のプラットフォームを構築しようということで、47もの団体が参加して議論を重ねてきたが、それぞれの団体の生田緑地に対する意識や、生田緑地の魅力・価値を高めていこうという取組にも違いがある。それぞれの立場から運営会議に対してのお考えを聞きたい。あるいは、マネジメント会議に入りたいかどうか聞いてみたい。

#### (会員)

- ・商業関係からマネジメント会議に参加しているが、商業関係だと生田緑地で行われる色々な催しや保全活動と一緒に参加していきたいとともに、生田緑地にある施設とタイアップして商店会等と一緒に活動していきたいという意見が多い。
- ・生田緑地を地盤にして活動している団体とは少し考えが異なっていると思う。先日「アド街ック天国」で生田緑地・登戸地区が取り上げられたが、ああいった立場で、生田緑地を利用して、施設と一緒に地域を盛り上げていきたいという観点からマネジメント会議に参加させていただきたいと思う。
- ・代表的な区民祭みたいな行事があるときは積極的に参加しているが、それ以外は年1~2回程度の参加である。通常メンバーに入れてもらって、協力できるものは協力して、一緒にやりたいことが生まれてくれば、商店会を利用したいという声に応えていきたいと思う。そういう立場で部会や全体会に積極的に参加させてもらいたい。商店街の情報を会の皆さんに聞いてもらいたい。

#### (コーディネーター)

- ・部会は、先程話があったように階層化されると思う。生田緑地の緑の保全をどうするかといった軸となるような部会と、プロジェクト的に設けられる部会があり、例えば、商工会の人が生田緑地を利用して何かやりたいといった場合に、生田緑地の保全と関係するポイントのようなものを商店街で発行するとか、連携する部会なども自由に自発的に責任者が立てられれば発足できると思う。多様な参加の窓口として軸を用意し、地域団体の方々にも何らかの形で参加してほしい。

#### (事務局)

- ・参加していただけることは非常にありがたい。たくさんの人々が参加できる仕組みとなるように検討していきたいと思う。

#### (コーディネーター)

- ・部会のあり方と運営会議のあり方も参加の場所という問題につながる。皆がばらばらに参加すると機能しなくなってしまうので、住み分けをしながら参加の場所をつくっていく必要があると思う。

#### (会員)

- ・運営体制のところには会長・副会長と書いてある。運営会議にも会長・副会長とあり、部会にも会長・副会長とあるが、こういった人達の責任として何をしなくてはいけないのか。運営会議で決まったことはどこまで権限があるのか。ここで決まったことは全体会に持ちあげないと事が進まないのか。

#### (小川コーディネーター)

- ・これまでの議論の中での会議体に推進エンジンに関する質問のようだが。エンジンとは何かという、まさに今後議論していくべき内容の質問だと思う。

#### (事務局)

- ・まず、会長は、会議の開催を呼びかけたり、その会議において議事を進めるための音頭をとってもらい役割を担うイメージである。決めることに関しては、色々な決め方がある。議決を採るものもあれば、その時の流れにより、完全な多数決ではないが妥当と思われる決め方に絞っていく。
- ・全体会の会長及び運営会議の会長は全体会及び運営会議で選任されることを想定しているが、部会長は部会ごとに独自に選ばれるイメージである。
- ・マネジメント会議全体の会長と運営会議の会長は、同じ人がやるべきか、違う人がやるべきかどうかは議論

した方がよいと思う。その辺りはどうか。

(コーディネーター) 運営会議の中で議決されたことが全体会に対してのことだと思う。

(事務局)

- ・権限はものによると思う。会則自体を変更したり、つくったりというイメージは、全体会で承認される議論であると思う。
- ・生田緑地にはさまざまな植生が存する中で、あまり好き勝手な活動をするとう植生に悪い影響が出てしまうため、日々の活動調整を行い、この程度の活動ならよいのではないかという結論を出す場は、全体会ではなくて運営会議になるのではないかと思う。
- ・公園全体の安全の問題、川崎市議会での議決や予算の問題があることから、最終的な判断をする責任は、公園管理者である川崎市になる。行政の運営に関わるようなことに関しては、マネジメント会議は一種の提言機能のようなものであって、市長が判断する形になるかもしれない。

(会員)

- ・コーディネーターについて伺いたい。会則を読むと会議の運営を中立的な立場で調整する役と読み取れるが、実際に運営に関わって何かを一緒に考えていくためには、会議に参加するだけでは難しい気がする。中立的な立場だけでよいのか。どういう資質をもったコーディネーターを配置しなければならないと考えているのか。会議の運営の中で会長と役員とコーディネーターはどのような役割分担をすることが望ましいと考えているのか3点について伺いたい。

(事務局)

- ・コーディネーターは、「配置することができる」と柔らかく考えている。こんなコーディネーターがいた方がより円滑に進むのではないかといった状況になったときに配置することになる。局面としては、会に参加している人が全員対立の構造を持ってしまったときに、中立的な立場の人を入れて司会をしないと場がおさまらなくなった場合にコーディネーター的な役割で入るかもしれない。おさめること自体にも専門知識を持っていて、かつ中立的な立場ということもあるかもしれない。コーディネーターという形の第三者が入らなくても、会に参加している人同士の話し合いで会長が仕切ることができるケースであれば話し合いでもよい。

(会員) 基本的に入らない方がノーマルで、場合によっては入ることがあるという理解でよいか。

(事務局)

- ・私のイメージとしてはそちらに近いが、皆で話し合いをした際にこれからコーディネーターがほしいとなれば考える。コーディネーターがいなくても話し合っている状態であれば、必要ない気がする。

(会員) これを考えたプロセスとは違うが拘らない。

(コーディネーター)

- ・今やっているコーディネーターの立場からすると、ゼロからスタートする場合にはコーディネーターの役割は重要だと思う。生田緑地のように10数年色々な方々が関わってこられた中で、中立という立場はあり得ないというのが現実だと思う。生田緑地ビジョンにはマネジメント会議にはコーディネーターありきで書いてあるが、その必要性はちゃんと議論した方がよいと思う。

(事務局) 極論からすると走り出してから考えてもいいと思う。

(会員)

- ・考えてきた過程ではこれまでのプロセスは非常に大事なものだと考えてきた。変更があるならそういう理解で進めればよいと思う。

(事務局)

- ・生田ビジョンを策定したときはコーディネーターが必要だとイメージされてきたが、準備会を進める中で変



わっていても良いと思う。

(会員) 変わるのは構わないが、どういうところが変わったのかを意識しておく必要があると思う。

(事務局)

- ・事務局としては、今までビジョンの段階では、マネジメント会議自体のイメージがまだ明確になっていない中で「愛知」の事例を参考に検討していた。「愛知」の事例は市民と行政が話し合う際に中立的なコーディネーターということが重要な位置を占めているようだった。ビジョンではスムーズに進めていくためにコーディネーターが必要だと書いていたが、「愛知」の話を知ったり、皆さんと議論した中で、「愛知」とは状況が異なるという認識を持った。生田緑地は市民活動団体が20～30年活動をされている状況が分かってきて、生田緑地のマネジメント会議の姿が少しずつ見えてきた中で、コーディネーターが絶対必要かどうかは言い切れないので、引き続き議論していきたい。

(会員)

- ・コーディネーターというカタカナ用語で、皆が勝手にイメージするが、ここで話しているのは司会に近い役割だと思う。「愛・地球博」で以前お話をしに来ていただいた県の職員の方は全ての市民団体の顔が分かり、365日それに専従しているようだった。
- ・愛・地球博のような公園の運営と市民の連絡・調整に専念しているコーディネーターであれば必要だと思うが、生田のビジョンで書いているコーディネーターはそれとは違うと思う。言葉を分かりやすいように書き分けておいた方がよい。長く関わっていると共通の認識が出来てくるが、行政側はうまく引継ぎが出来ていない。引き継がれても誤解のないように文章を書いてほしい。

(事務局)

- ・主旨はその通りだと思う。書き方としてはコーディネーターを置くことが出来るということだと思う。置いても置かなくても良い。

(会員) そういったことだが、コーディネーターに期待することが異なっている。

(会員)

- ・先程、全体会議は総会という言い方をしていた。全体会が会全体の最高の決議機関にあたるような話だったが、この構成メンバーは今の20数団体をあまり増やしたくない方向で考えているのか。総会の参加者が多いと意見の集約が難しいということはわかるが。しかし、協働のプラットフォームという概念からすると、会員は多ければ多いほどよいと思う。ここに出てきていない様な介護福祉団体や子育て関係の団体など多様な団体が出来るだけ多く参加してくれることが、協働のプラットフォームの実現のために必要な事だと思う。これについて生田緑地に参加されている会員の方の意見を聞きたい。

(コーディネーター)

- ・全体会の見方について2つあるということで、1つは協働のプラットフォームという視点に立つと多様な団体がたくさん参加して、生田緑地の魅力をつくっていくことが大事であるということ。
- ・もう1つは、全体会が会全体の決定機関であるならば、多くの団体が参加しても決まらない。準備会には47団体が集まっているが、特に周辺の商店街の方を含める点について意見はどうか。
- ・これまで関わってこられなかったとしても、生田緑地は首都圏にとって宝であり。生田緑地を抱えている近隣の地域として関わっていききたい。今のお話は全体会の質の問題になると思うが。

(会員) 全体会の役割が違って2つある。その2つは一緒にはならない。

(事務局)

- ・全体会に参加する人数が少なくなければならないとは考えていない。参加できる方はどんどんマネジメント会議に参加してもらおう。ただ、非常に人数が多くなることも考えられるので、そのために運営会議を設置するというイメージだった。

- ・色々な団体に自由に入出入りしてもらい、情報交換も出来て、そこから新しいものが生まれていくというイメージのものと、決めるべきときに決める場に参加できる権限を持つという2つの議論がある。我々が直面している「保全・活用」という問題については、決めるというアクションが必ず出てくる。
- ・決める場をどこに設定するのか。決める場と自由に入出入りできる場と2ついるのではないかと思う。

#### (会員)

- ・必ずしも生田緑地に関する重要なことを決める場に参加したいと思う人達はそれほどいないかもしれない。何らかの形で色々な団体が自分達が普段行っている活動とは異なる活動をしている団体とそこでつながることで、もっと新しい活動が出来るかもしれないという期待がある。そういうレベルで会員になる人達は会議に参加して何かを決めるとかということに関わりたいたいわけではない。ただ、そういう人達も出来るだけ取り込んだ方が、何かやろうとしたときに常に情報が手元にある状態が実現できると思う。

#### (事務局)

- ・会員がたくさん増えたとして、会員同士で情報交換する場と決める場と、全体会を分けて考える必要がある。

#### (コーディネーター)

- ・公園の意志決定をしていく会議体と生田緑地を利用する人達が参加・交流をして新しいものを発動していくような場、この2つの機能を一緒には出来ない。協働のプラットフォームと一言で言ってしまうと色々混在してしまうが、その中に意思決定の部分と活動の部分とがある。今提議された全体会の二面性について、特に周辺の商店街や町会の方はどちらへの参加の意向が強いのか。

#### (会員)

- ・これまでの経過ということで事前に2回会議が行われた。5月11日に管理運営協議会が主催し勉強会ということで、総合企画局を呼んで、問題提起をしてもらった。その会議で出した意見を簡単に紹介する。
- ・①行政の立場の方がもっと増えるということが前提で、行政との関係も意見として出された。例えば、宮前区に入ってもらった方がよいのではないかと。②一般の市民が個人で生田緑地の会議に関わる余地は持たなくてよいのかという意見も出された。③協働の意味合いについての議論もあった。④予算が付くのかという議論もあった。⑤現在、生田緑地に関係する部署が分かれているため、ワンストップ式に対応してもらえないかという意見も出された。
- ・協働という意味合いについて、事務局の話の中では市民が活動する場のように感じられたが、マネジメント会議はあくまで市民と行政の協働の場と理解している。行政の担当者が出席しているが、発言がないことが気になる。管理運営協議会でもそこが一番の問題点だった。市民活動の連絡の場になっているが、本来は「協働の場」として管理運営協議会は立ち上がったものである。行政の担当部局の中で生田緑地にどう関わってくるのか、市民とどう協働していくのか。今までそれぞれの部署の中での位置づけや権限がなかった。単純な連絡窓口だけでは協働にならないのではないかと。
- ・例を上げると、向ヶ丘遊園の駅前に観光案内所があったらいいというアイデアが出て、出席者全員が賛同していたが、誰がどこに声をかけるかという段階になったら、皆知らん顔してしまう状態であった。メンバーになっている多摩区に声をかけても前向きに動いてくれない。協働しようとしても気持ちが萎えてしまい、会議をやる意味がなくなってしまう。行政の中では「生田緑地マネジメント会議」はどのくらい位置づけられているのか。それぞれの関係部局の方に状況を聞きたい。

#### (コーディネーター)

- ・どちらかという行政は、受け身的になってしまう体質があるのかもしれないが、協働とは共に働いて、新しいものや価値や意味を作っていく場なのではないかという意見が出たが、行政は協働という意味合いをどう捉えていくのかと質問があったが。

#### (事務局)

- ・この会議は、市民の方同士の活動を調整する機能もあるが、それだけではなく、行政と市民が意見交換をしていく機能もあるとイメージしている。
- ・指定管理者は、自分で予算を持っているので、指定管理者の予算の中で出来ることもあると思う。通常の管理業務に加えて、生田緑地の価値と魅力を向上させるためにPRやサインをつくるなどの提案もあるかもしれない。ビジターセンターについても、市民の方を案内するなど色々な機能を有しているため、さまざまな活用方法があると思う。指定管理者が持っている機能に対して皆で意見を出し合い、うまく着地できたものは実行されていく。
- ・行政としては、公園管理者と4館の代表者が入ってくる。4館が連携して何が出来るのか、緑地全体で何が出来るのかなどについて、市が持っている行政機能の中で、反映可能なものはやっていくこととなる。
- ・しかし、出席者の権限を越えた問題については、急には意思決定できない。公園管理者や4館がそう思っているかどうかはこれから聞いていけばよい。今はまだ行政の中できちんと話し合われていない。

#### (コーディネーター)

- ・行政の立場でいくと今答えられるかどうか、やれるかどうかという問題がある。共にこの問題を解決していくという意志や意欲の問題もある。行政関係者の方に意見を聞きたい。

#### (多摩区役所地域振興課)

- ・観光案内所の話は、実際私がいただいた話だと思う。お話したときはやらないと捉えられたのかもしれないが、地域振興という観点から観光案内所がどこまで優先順位を持ってして必要なかということを考えてうえでの回答だった。観光案内所をつくるという話は、地域振興課では地域活性化の見解から、街が盛り上がってからつくるべきではないかと考えるため、少し先になるのではないかとお答えした。
- ・会議に出席しているのは、マネジメント会議ができることで、商店会の方と同じような意見になるが、地域活性化の取組を生田緑地の中で何かできるのではないかと期待する面も大きい。地域振興課で考える生田緑地内の取組などについてもマネジメント会議の場で話し合えればよいと思う。部会というもののうち、大きな活動調整部会のようなものがあり、更にその下に活動を話し合える場があればよいと思った。

(会員) 活動調整部会には、誰が入るイメージなのか。

#### (多摩区役所地域振興課)

- ・個人的には、部会には大きく“緑部会”や“活動調整部会”のようなものがあり、何かプロジェクトが生じたときにその下に取組に関して話し合う小さな部会のようなグループができるとイメージした。
- ・区の方で生田緑地で何か取組をやりたいとなったときに、仮に活動調整部会のようなところがあった場合に、最初にそこに集合して、細かい取組に関してはグループのようなものがあり、そこにいらせてもらうことをイメージした。
- ・これまでは、地域活性化という視点から具体的にイメージしにくかったので、発言もしにくかった。

(事務局) 今の意見のような機能はどこかに入れていくべきことなので、検討していく必要があると思う。

#### (会員)

- ・この会議には、雑木林勉強会のメンバーとして参加している。昨年からは生田緑地に隣接している町会の会長もしている。地域振興課からは毎月郵送物が送付されている。町会関係がなぜ生田緑地に来ないかというところ、そこに住民がいないからではないか。隣接している町会をメンバーとして取り込んでいくには連合会の会長さんは仕事が多くて無理だと思うし、町会長も無理だと思うので、町会の中で、自然に関心の高い方を推薦してもらい、その方が集まれるような会議を町会のシステムの中に組み込んでいく必要があると思う。連合会の長が仕方ないから出ているのだったら、積極的な意見が出ると思わない。

#### (多摩区役所道路公園センター)

- ・参加団体の1人として出席しているので、こうした方がよいという強力な発言はなかなかできないが、市民

主導で方向性が出てくるならば、それをサポートすることが仕事だと思っている。ここ2、3年のマネジメント会議への移行期間は明確なビジョンがないので、発言が出にくいし、慎重になる。

(コーディネーター) ここで4館の方のご意見を聞きたいということで、日本民家園の方どうか。

(日本民家園)

- ・よいアイデアが出てきたときにすぐにやりましょとなかなか答えられない場合がたくさんある。民家園の中のことだったら私達の持っている予算の中で出来る範囲であれば何とか工夫してやりましょと言えるが、自分の核となる仕事以外のところだと調整したり、発言すると市長が発言したようにとられてしまうこともある。
- ・「生田緑地サマーミュージアム実行委員会」というものがあって、この準備会の半分ぐらいのメンバーが参加していて、8月のある1日もしくは2日間で生田緑地の主に中央部分で、生田緑地に関わっている市民団体や行政が、それぞれ生田緑地の魅力を発信するバラエティに富んだイベントを行う。一見するとコンセプトが統一されていない感じがあるが、目的はマネジメント会議と非常に似ている。広報の面でも電子媒体を使って生田緑地の魅力を発信する取組があったりと、3、4年前から少しずつ拡大しながら開催している。
- ・サマーミュージアム実行委員会は、行政と民間の市民活動団体の方とやっているが、実際にどういう動きをしているかという、アイデアは実行委員会でたくさん出てくるが、実際に実行に移す場合は行政も民間の方も自分の仕事以外のボランティアの時間を使ってやっている。行政だとボランティアというのはいり得ないが、中間管理職になると残業手当がつかないので夜にやっている。仕事といいながら仕事ではないが、生田緑地を盛り上げようとしてやっている。実際に民間の方は、良いアイデアをたくさんくださるが、自分の仕事があるので実行部隊としては、生田緑地周辺に住んでいる行政の方や多摩区役所、本庁の商業観光課の方が力を差し伸べている。何年も続けていると動きは鈍くなる。継続して続けていくことは難しいので、エンジンが欲しい。
- ・名簿や資料を誰がつくるのか、調整するのは誰かといったことがあるが、誰かがやらなければならないので、今は非常に苦しい思いをしながらやっている。気持ちはあるが、気持ちに追いつけない現実もある。
- ・サマーミュージアム実行委員会は、かなりの部分でマネジメント会議が目指している目的と共通していると思う。マネジメント会議の一部会に取り入れてもらえると動きがより活発になるのではないかと思う。お金の面では、サマーミュージアムというのは、3館が持っている予算があり、それを母体に協賛金をいただきながらやっている。サマーミュージアム実行委員会は、マネジメント会議とは一緒に出来ないのかと思っている。

(事務局)

- ・マネジメント会議は会議そのものが事業を行うようなイメージではなく、生田緑地で活動する人が情報交換や活動調整をする場所だと考えている。サマーミュージアムのようなアイデアが出てきてもマネジメント会議が直接お金を集めて開催するのではなく、外部に実行委員会を設けて、資金を調達して、マネジメント会議の中で調整したりするイメージなのかなと思う。
- ・指定管理者もサマーミュージアムの実行委員会に加わる仕様になっている。指定管理者が動くことにより、例えばビジターセンターを活用するなど、うまくいくものもあるのではないかと思う。
- ・マネジメント会議とサマーミュージアムの連携は当然行うことになると思うし、サマーミュージアムのようなものがこれから出てくれば、当然連携してやっていく。ただ、マネジメント会議の規約の中に位置づけられているというイメージではなく、連携してやっていくものと考えている。

(会員)

- ・色々聞いているが、あまり腰が持ち上がるような話ではない。生田緑地だけを考えてもダメだと思う。まちづくりと生田緑地の問題である。各大学との連携の問題とか、色々な施設との流れをもう少し詰めて考

えていかないと前に進まない。多摩川もあるので、発展的な考え方をしてもらいたい。生田を盛り上げるものを打ち出してほしい。

#### (コーディネーター)

- ・民家園の話の中にあっただが、サマーミュージアムなどとの連携には、運営会議と部会の構造が胆になると思う。
- ・今日出た意見の中で、特に商店街の方が是非参加したいという意思を持っているということは、大切なことだと思う。6月13日には市民活動団体を中心にした会議が行われる。商店街の参加も視野に入れながら、議論していただきたい。
- ・今日は全体会の二面性、交流のプラットフォーム、意思決定をしていく機能の問題が提起された。
- ・コーディネーターとして僭越な言い方であるが、参加と交流のところには、ある種のコーディネーターが必要ではないかと思う。意志決定などの重要な場では、そういうことではなく、さまざまな議論ができることが重要であると思う。
- ・提示された会則骨子案については、この間事前に開催された2回の市民活動団体の会議で出た意見も含めて、6月13日の会議で展開されていくと思う。これを踏まえて次回、7月の第6回生田マネジメント会議準備会を迎えたいと思う。

#### (事務局)

- ・事務局からその他として、今回、生田緑地の新しいホームページをつくり、ホームページの右下かに「生田緑地マネジメント会議」のアイコンを設置し、クリックするとマネジメント会議のホームページを見ることができるようになっている。
- ・次回の生田マネジメント会議の準備会は、7月19日18時30分から多摩区役所6階の601会議室で行う。6月13日に市民活動団体による会議を行うので、これについて事務局から追って通知する。

第5回 生田緑地マネジメント会議準備会 出席者

		会議出席者	出欠
1	N P O ・ ボラン ティア 団 体	生田緑地管理運営協議会	葉袋奈美子 ●
2		生田緑地管理運営協議会	本多正典 ●
3		生田緑地植生管理協議会	倉本宣 ●
4		生田緑地雑木林勉強会	井口実 ●
5		生田緑地の雑木林を育てる会	白澤光代 ●
6		生田緑地の雑木林を育てる会	藪哲二 ●
7		生田緑地の谷戸とホトケドジョウを守る会	榎本垂矢 ×
8		特定非営利活動法人かわさき自然調査団	岩田芳美 ●
9		特定非営利活動法人かわさき自然調査団	岩田臣生 ●
10		特定非営利活動法人多摩川エコミュージアム	齋藤光正 ●
11		飛森谷戸の自然を守る会	高木一弘 ●
12		のぼりとゆうえん隊	野仲将生 ×代
13		民具製作技術保存会	砂川康子 ●
14		向ヶ丘遊園駅周辺の街づくりを考える会	向井茂 ●
15		向ヶ丘遊園駅周辺の街づくりを考える会	町山良行 ●
16		向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会	松岡嘉代子 ●
17		向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会	中島光雄 ●
18		もみじ会	照沼有平 ×
19		もみじ会	篠崎正善 ●
20		炉端の会	近藤達也 ●
21		炉端の会	吉田清美 ×
22	地 域 団 体 ・ 大 学 ・ 企 業	川崎商工会議所	佐保田浩一 ×代
23		セレサ川崎農業協同組合	石井裕二 ●
24		多摩区観光推進協議会	原島弘 ●
25		宮前区観光協会	川島芳茂 ×
26		多摩区商店街連合会	安陪修司 ●
27		多摩区町会連合会	佐伯喜世志 ×
28		宮前区全町内・自治会連合会	杉田進 ×
29		財団法人川崎市公園緑地協会	関口正敏 ×
30		株式会社 藤子ミュージアム	杠貴行 ×
31		専修大学	原田博夫 ×代
32		KSソーシャル・ビジネス・アカデミー	徳田賢二 ×
33		明治大学	本所靖博 ●
34		日本女子大	高橋謙一 ×
35	行 政	公園緑地まちづくり調整室	荻原圭一 ●
36		市民・こども局市民文化室	中山健一 ●
37		岡本太郎美術館	小林正人 ×
38		経済労働局商業観光課	南誠 ●
39		建設緑政局公園管理課	浅井聡 ●
40		建設緑政局公園緑地課	小川忠幸 ×
41		宮前区役所企画課	阿部浩二 ×
42		多摩区役所企画課	門間透 ●
43		多摩区役所地域振興課	鈴木誠二 ×代
44		多摩区役所道路公園センター整備課	佐藤力 ●
45		教育委員会文化財課	渡辺英一 ×代
46		日本民家園	木下あけみ ●
47	青少年科学館	山田友之 ×	